

平成13年度研究活動成果をまとめる

平成13年度には「北大阪地域情報化未来都市研究会」と「静岡・清水都市圏情報化未来都市研究会」の2つの研究会と、テーマ別研究として「都市再生特区のあり方に関する検討調査」を進め、会員企業の熱心な検討により報告書を取り纏めました。2つの研究会は引き続き14年度も継続し、具体的な提案を取り纏め、行政・自治体に提言する所存です。「都市再生特区のあり方」については、平成14年度に地域を選定し、研究会を発足すべく鋭意検討を進めています。

1. 北大阪地域情報化未来都市研究会

平成13年度の最終研究会が3月11日に開かれ、本研究会の委員長である大阪大学サイバーメディアセンター長西尾章治郎教授と副委員長関西学院大学総合政策学部加藤晃規教授による御指導の下で、研究会成果の取り纏めと報告書案の検討を行いました。

報告書は生活者の視点、国際競争、魅力づくりの視点および集客の視点等に立ち、第1章では、調査の目的や方法等、第2章では対象地域の特性を整理し、第3章で基本コンセプトと事業展開方針を整理しています。

基本コンセプトは、北大阪地域の広域交流の要としてのアクセス条件を最大限に生かすこと、ライフサイエンスと歴史文化の2つを大きな柱として様々な高水準の研究開発資源を活用すること、最後に、それらの資源を地域住民の生活向上や新産業創造に結びつけることの3つをテーマとして、「ライフクリエイティブシティ北大阪」を掲げています。

事業展開方針として、日本のライフサイエンスを先導し先端的な研究開発成果を実証する「健康開発都市」、貴重な歴史・文化・芸術資源をITによって再創出する「メディア文化都市」、関西圏の新たなライフスタイルを創出する「生活文化都市」、ITを活用した環境共生型都市開発を実現する「環境共生都市」の4つを提示しています。

また、事業提案を整理し、以下の5つの先導プロジェクトを抽出し提案しています。

① 「生命科学電子図書館」

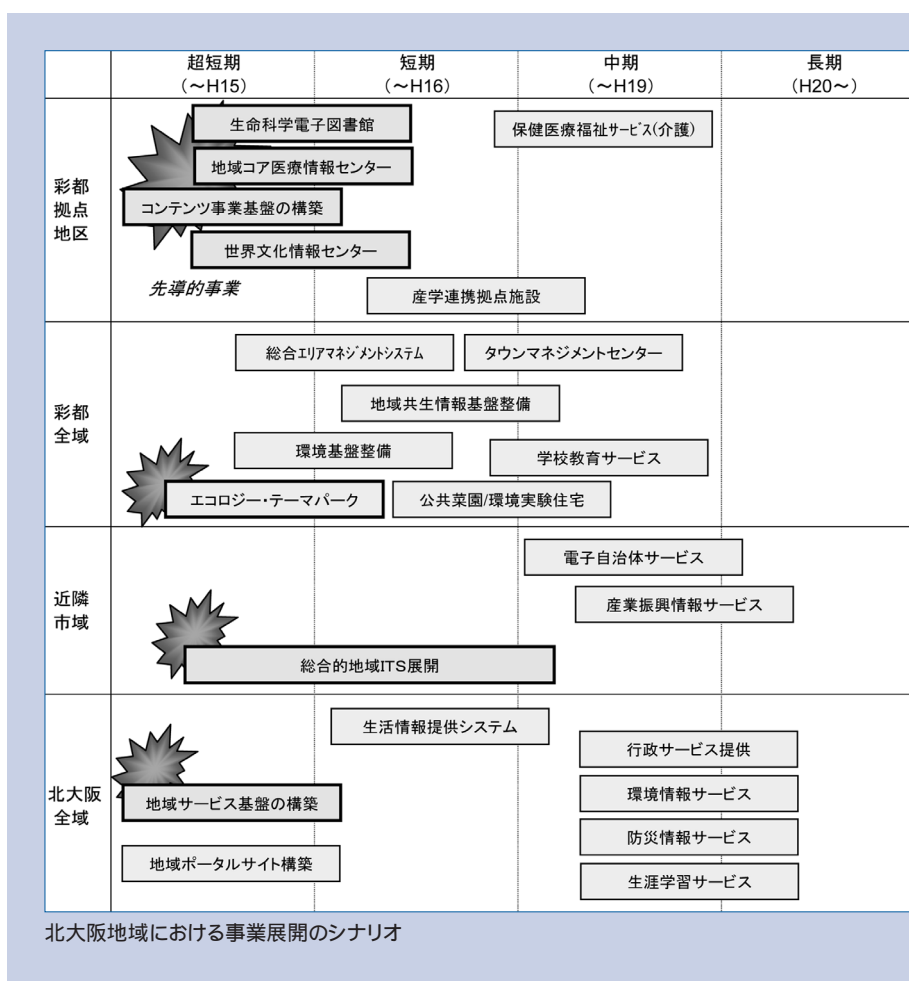
ライフサイエンスについて、プロの研究者も一般の生活者も有効に利用できるデジタルアーカイブをつくろうという提案であり、バイオ情報ハイウェーや大阪大学との連携が重要となります。

② 「地域コア医療情報センター」

医療機関のネットワークを形成し、専門的な医療機関の知恵やノウハウを、地域の診療所でも活用できる方向をめざすものであります。

③ 「世界文化情報センター」

国立民族学博物館を拠点とし、コンテンツのデジタル化に加え、国内外の研究機関と連携するなどして、世界各地の生きた情報をネットワーク化、アーカイブ化し、有効に利用できるようにするという提案であります。



④ 「総合的なITSの推進」

彩都を中心とした地域交通体系について情報技術を活用して、先進的で便利なものにしようという提案であり、デマンドバス、カーシェアリング、ETC応用のキャッシュレスサービス等が想定されます。

⑤ 「地域住民向け行政サービス」

各分野の取り組みを地域住民の生活の魅力につなげる意味で、電子自治体と情報家電の2つをキーワードとして展開しようというものです。

2. 静岡・清水都市圏情報化未来都市研究会

本研究会は静岡県立大学北大路経営情報学部教授を委員長に、6月11日に平成13年度の最終委員会を終了しました。平成13年度の研究では、社会潮流として、グローバル交流、知識情報化、少子高齢化および地球環境共生の4つを上げ、静岡・清水都市圏で「集う人」「働く人」「住む人」の視点から、「世界の人が集う国際健康文化都市」「活力溢れる都市経済

を支える新産業創発都市」「多彩なコミュニティの参画による快適共創都市」の都市像を提案しています。

具体的な戦略プロジェクトとして、まず静岡・清水都市圏全域では「静岡・清水エリアITSの展開」「ブロードバンドネットワーク環境の整備」をあげ、東静岡地区で、「まちづくり総合サポートセンターの整備」、「新産業創発支援拠点の整備」を提案し、清水港周辺地区で「清水港情報センターの整備」「清水港の賑わい拠点化」を提案、最後に日本平地区での「健康文化交流ゾーンの形成」を提案しています。平成14年度はこれらの戦略プロジェクトの展開について具体化検討を実施予定です。

3. 都市再生特区のあり方に関する検討調査

本テーマについて当協議会の開発部会幹事会で検討を行いました。

まず大阪駅北地区、横浜の関内およびMM21周辺地区などを事例地域として取り上げ、事業化の阻害

要因などを明確化し、都市再生の取り組みと課題を検討しました。先進地域における取り組みとして、NYシリコンアレー、ロンドン Docklands を紹介し、今後の都市再生の方向として、都市再生は市街地再生と産業創生が合わさったものの、つまり産業集積の形成を通じた都市再生であるとしています。先導プロジェクトの提案として、「グローバルインキュベーションセンター」、「ユビキタス・ナレッジ・コリドー」、「都市観光による都市再生」を上げました。平成14年度は対象地域を選定し、研究会として発足し具体的な提案活動を展開する予定です。

★静岡・清水都市圏に「集う人」の視点

世界の人々が集う国際健康文化都市

【まちづくりのキーワード】

- ―一流の体験
- ―自然と調和した都市環境
- ―スポーツ文化
- ―スポーツを通じた情報発信
- ―海洋文化、歴史的文化遺産等の地域資源活用
- ―恵まれた交通インフラ
- ―観光スポットの連携
- ―健康まちづくり

★提案プロジェクト

- a. 健康・スポーツ関連の交流拠点づくり
- b. 文化施設・観光地等のネットワーク化
- c. 集う人々に対する積極的な情報発信

★静岡・清水都市圏で「働く人」の視点

活力溢れる都市経済を支える新産業創発都市

【まちづくりのキーワード】

- ―良好な人材、恵まれた市場
- ―広域交通インフラ
- ―研究開発型企業、情報発信型企業
- ―清水港を活用した地域産業の国際的展開
- ―企業化意欲の高い人材、創業活動支援
- ―確かで迅速な情報
- ―優れた地域産業、支援産業
- ―産学官民の連携促進

★提案プロジェクト

- a. 産学連携の更なる推進
- b. 清水港の有効活用
- c. マーケットに対する情報発信力の強化

★静岡・清水都市圏に「住む人」の視点

多彩なコミュニティの参画による快適共創都市

【まちづくりのキーワード】

- ―住みよい住宅地、良好な教育環境
- ―水とみどりに親しむまちづくり
- ―日本一の広域都市の都市経営
- ―自立した市民のコミュニティ活動
- ―市民の健康を守る医療福祉の充実
- ―地域内に有機的に連携する交通ネットワーク
- ―住む人の利便性を高める情報ネットワーク
- ―災害に強いまちづくり
- ―豊かな自然環境
- ―魅力的な商業施設や文化施設
- ―市民と市民の交流活発化

★提案プロジェクト

- a. 地域コミュニティ活動の積極的支援
- b. 情報ネットワークの活用による生活利便性の向上
- c. 地域交通ネットワークの向上
- d. 安全社会を支える防災都市づくり
- e. 医療情報ネットワークの構築

静岡・清水都市圏情報化未来都市が目指すべき将来都市像